

大阪ベルスタジオでの水中モデル撮影要領・注意

1

2021 8月 に一わ

2022 8月14日 全面改訂

おことわり：

- ・ モデルにも参考になるでしょうが、基本、撮影者を対象としたものです。
- ・ 内容は、あくまで2022年8月某日のベルスタジオさんの状態に対応したもので、中型と大型水槽が設置された状態を前提にしたものです。この後何か設備等変更やスタジオ利用ルールがあれば適合しない内容も生じるでしょう。
- ・ 日中での撮影しか経験していませんので、夜間の撮影については本書でカバーされていません。
- ・ 水槽利用の条件や注意点はあくまでスタジオ管理者が決定することであり、**本資料が何かを保証するものではありません**。疑問あれば、**管理者（か撮影会運営者）にコンタクト願います**。

■ 水中撮影---モデル側の事情

特別に訓練していない一般のモデルさんの水中滞在時間は20秒もあるかないか。実質撮影できる時間は10秒からせいぜい15秒。なんでそんなに短いのか？

- ・ 体が浮かないように、息を吐ききって沈み、気泡を出さないため、息を止めている。この状態では息が吐ける通常の潜水と違い、長時間水中にいられない。
- ・ 沈んだあと、皮膚や鼻の孔などの気泡逃がしの対策し、髪やスカートの裾の浮きを鎮めるなどの準備時間（ある意味ロスタイム）が必要。

参考1：モデルさんの撮影準備のための対策例

- ・ フレアの広いスカートの浮き対策：
ゆっくり沈んでもスカートは浮き上がる。手で押さえて整える方法が一つ。余分に沈んでもらった後少し浮き上がり、相対的にスカートの裾を下げる方法もある)
- ・ 水面での反射像、それもあまり像を歪ませないで画面に取り込む場合、波を立てないように沈む必要があり、より一層ゆっくりとした沈み込みが必要。

参考2：ストロボチャージ時間の短さの重要性

1サイクルの撮影可能時間が短いので、**チャージが遅いストロボでは撮影枚数が稼げない**。その意味で、チャージに時間がかかる乾電池でなく、リチウム電池利用のストロボが望ましい（チャージ時間だけで言えば、LEDライトが理想）。

■ 水中撮影でのカメラマン側の留意点等

- ① アクリル板での反射でのカメラマン自身の映り込みある。白系や明るい色の服装は避け、無地・黒系か同等の服やマスクが必須。
さらに、理想を言えば、いわゆる映り込み対策のレフ板（右写真）も。



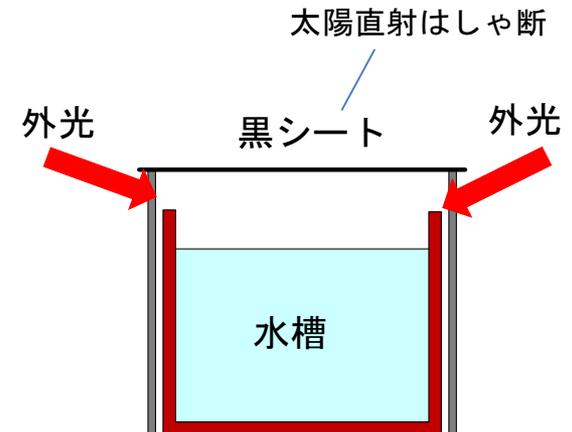
- ② 撮影小部屋が狭い目であるため、全身＋反射像を撮るには以下のレンズが必須となる。
特に横に大きく手を広げるときにケラレが生じやすくなるので注意。

- ・ 中型水槽 : 35mm換算20mm（か、より広角）のレンズ
- ・ 大型水槽 : 35mm換算24mm（か、より広角）のレンズ。

絞り開放気味の撮影も可能だが、大光量のストロボ発光で、F8程度以上に絞り、AF精度や外光のモレ込みでの色ミックス等に左右されない状態での撮影が無難であろう。

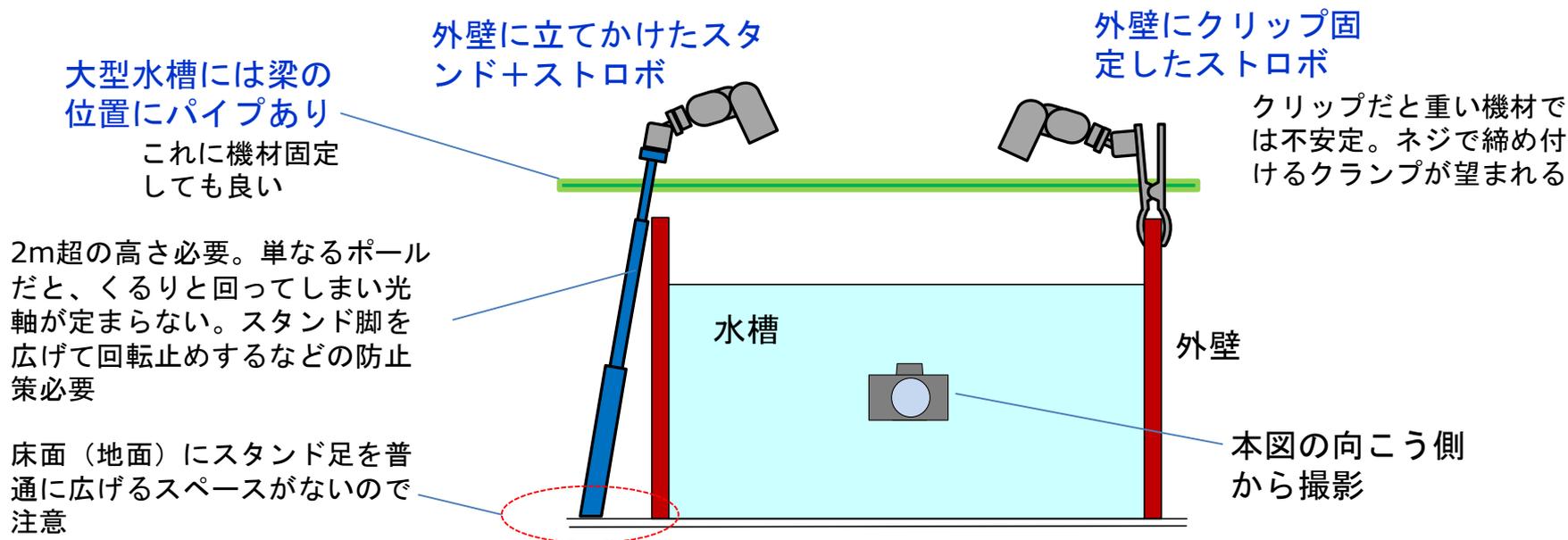
- ③ 2022年8月の水槽の状態

- ・ 屋根は黒シートでシェード状に張られており、そのひさしの下には50～100cm程度の間隙があり、太陽光の間接光が入る。このシェードは外すことも可能で、太陽光照明で撮影することもあるとのこと。
多くは黒シートで太陽光はしゃ断し、水面上からストロボで照明をあてて主照明とする。
- ・ 中型水槽の内壁は水色。大型水槽は黒色で完全艶消しではないので、ある程度光を反射する。照明光のビームアングルを広げると、内壁の凹凸が目立つことになる（レタッチ覚悟）。



④ ストロボの設置法

- ・ 撮影小部屋からの発光はアクリル板の反射があるので、原則NG。光に角度つけてもアクリル傷が光ったりしやすい。
- ・ 水槽上部からの発光が基本となろう。水槽周囲3面が板塀のような構造で覆われているので
 > 撮影用の大型クリップかスーパーランプ（で板塀を挟む）+自由雲台やマウンターを使うのが最も簡便で確実。
- ・ 水槽の壁近くにライトを配置するためにスタンドを使う場合、多くは周囲の壁にスタンドを立てかける形になる。その場合、ライト位置が2mを超える高さのスタンドが必要。
- ・ 水槽の中心部付近に光源を持ってくるには水槽の梁のような位置にあるパイプを使うか、水平ブーム+スタンド（2m超）を使うことになる。ただスタンド脚を置くスペースに制約あり。詳細はスタジオ管理者に問い合わせのこと。



⑤ 水槽の亚克力板（極めて高価）や内壁塗装を傷めないための注意事項

- ・ 基本的に許可されない金属機材を水槽内に入れてはいけない。特に亚克力板近くに機材を置くことは厳禁。
- ・ モデルやその衣装が触れて機材（例：ライトスタンド）が倒れることも考慮必要。
- ・ 硬い機材が内壁に触れる可能性があるなら、基本許可されない。

水槽内に機材を設置したい場合、現場でNGと宣言されることのないよう、**事前にスタジオ管理者に打診すべきである。**

例：2022夏、水中LEDライトを搭載したスタンド（金属製）を水槽内に入れたいと申し出た。結果として、亚克力の反対側に配置すること、スタンドは禁止でライトはストラップでつるすことは事前メールでお聞きした。当日、ライトのボディが内壁に触れる部分に保護用の布（厚手のフェルト）を貼った状態を見ていただき、小型LEDライトの水槽（吊り下げ）設置の最終許可を得た。

条件付き許可：

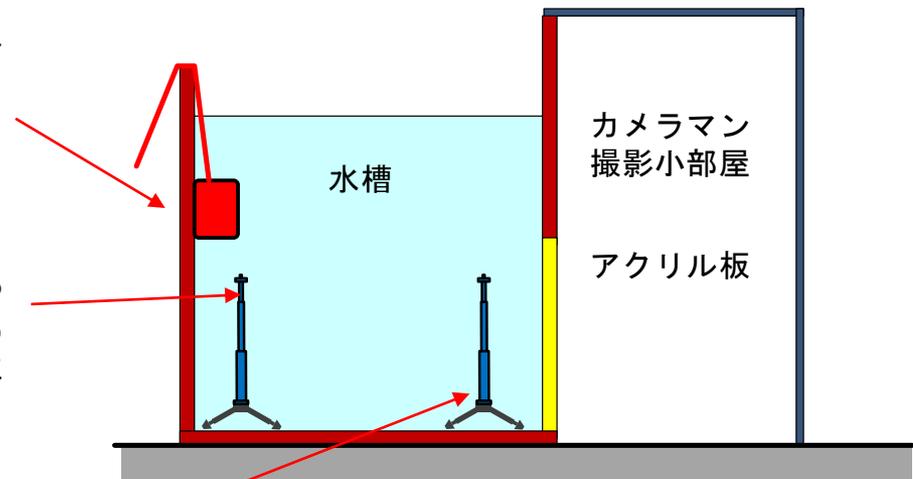
壁近くに吊り下げる機材は壁の傷付け対策すればOKとなる可能性あり。スタジオ管理者に要確認。

原則禁止：

亚克力板の反対側に設置の硬い（金属製など）機材はモデルの体や衣装に触れて倒れて亚克力板にあたる可能あり。壁を傷付ける可能性大。

絶対禁止：

亚克力板近くの硬い（金属製など）機材は亚克力を傷付ける可能性が大きく、NG



⑥ LEDライトかストロボか

スタジオ管理者は昼間ならストロボが良いと推奨する。ある程度間接光の外光が入るので、光量の関係でストロボのほうが確実であろう。

LEDライトは演色性が劣るというご意見であったが、むしろ照射ビームを狭めにくいので、内壁の凹凸が強調される点のほうが問題となるだろう（モノブロックタイプのLEDライトならビームを絞る機材があるが、平面パネルのLEDライトだと絞りにくい）。逆にビームが絞れるならLEDライト（できれば無線制御付き）のほうが撮影セッティングは容易となろう。

⑦ 撮影小部屋の環境

水槽は屋外であり、カメラマンの撮影エリアは黒いシートでほとんど隙間なく覆われている。
夏場は極めて蒸し暑く、たいてい大汗をかくので、そのつもりで。

以上